

「国際輸送のトラブル対応」テーマにセミナー

カーゴクレーム発生時のポイント解説

(株)インターリンク
東京海上日動

国際輸送に関するリスクヘッジを専門に行う保険代理店(株)インターリンクは昨年11月20日、東京都千代田区の常盤橋タワーで、「国際輸送におけるトラブル時の対応」運送取扱人(取次運送)の責任・FCR発行の実務について」と題したセミナーを、東京海上日動と共同で開催した。当日はセミナーのテーマに基づく仁井稔大弁護士(仁井法律事務所)による講演が行われ、フォワーダー、通関業者、運送業者、荷主ら約60人が参加した。



フォワーダー、通関業者など約60人が参加

になるため、損害発生後は迅速にサーベイを実行してもらうことも重要だと述べた。

「FCR」については、運送取扱人としての責任制限の他、デマレージが起きた際にシッパリーが荷主に請求できることなどが書かれた標準取引条件を記したものだと言

明し、フォワーダーが運送取扱人として手配した運送で貨物事故や引取拒否が発生した際の、リスクヘッジに有用だと紹介した。

最後に、東京海上日動総合営業第二部の伊藤文平氏が登壇し、FCRの発行、保険でのリスクヘッジ検討などによる同社のリスクマネジメント支援を紹介してセミナーは終了した。

の区別に十分注意しながら、荷送人、荷受人、運送人が誰かを確認しなければならいと述べた。

②運送人の責任区間での事故の発生については、運送開始時に貨物が正常で、終了時に異常な状態であることを立証しなければならいと

どでは、運送開始時の貨物状態の分かる証拠として、「バンニングレボートや荷主の工場や倉庫での管理データ」などが必須とした。

し、梱包された箱の損壊具合などではなく、箱の中身が壊れていることまでしっかりと分かるクローズアップ写真を撮影し、証拠として確保しておくべきだと説明した。また、サーベイに関してはいっ検査したかが重要



仁井大律師

区間での事故の発生③損害の発生①の三つを挙げ、①運送契約について、本人、代理人

「受取拒否貨物」発生時の対応等説明

がよいと解説した。